

公表

## 事業所における自己評価総括表

|                |                           |    |               |
|----------------|---------------------------|----|---------------|
| ○事業所名          | プロッサムジュニア長久手藤が丘教室（児童発達支援） |    |               |
| ○保護者評価実施期間     | 2024年 12月 1日              |    | 2024年 12月 27日 |
| ○保護者評価有効回答数    | (対象者数)                    | 9名 | (回答者数) 8名     |
| ○従業者評価実施期間     | 2025年 1月 10日              |    | 2025年 1月 16日  |
| ○従業者評価有効回答数    | (対象者数)                    | 5名 | (回答者数) 5名     |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2025年 1月 20日              |    |               |

## ○ 分析結果

|   | 事業所の強み(※) だと思われること<br>※より強化・充実を図ることが期待されること   | 工夫していることや意識的に行っている取組等   | さらに充実を図るための取組等   |
|---|---|---|--|
| 1 | 「個別」と「集団」の両方を実施することで、集団生活の中でお子さま毎に苦手なことをしっかりとアセスメントをとり、その課題を個別で繰り返し練習することで、お子さまの小さな「出来た！」を積み重ね、自己肯定感を高めていく支援を実施していること。        | 個別はお子さまの集中出来る環境を整え、完全マンツーマン化を堅持しています。褒めることができることは褒め、自害/他害など、だめなことははっきりと「NO」と伝えるために、言葉だけでなく、ジェスチャーやアラームなど、特性に合わせて「伝わる支援」の工夫を様々な試すことを継続しています。               | 土台となる力をつけるための支援をしながらも、お子さまの「得意」なことを常に探しています。平均点的に健常者が出来るレベルに持っていき支援を超えて、個々の特性を自身で操る方法を見つけてもらうような働きかけをし、自分の得意を体感してもらえるようなアプローチを心掛けています。 |
| 2 | 音楽が得意/好きなスタッフばかりなので、集団活動を、「歌」「楽器演奏」「ダンス」「レクリエーション」の4本柱を中心とした、音楽特化な教室であること。音楽の力を活かし、社会で生きて行くために必要な力を楽しく身に付けることが出来る支援を実施していること。 | リトミック指導資格保持者によるリトミックや、生演奏に拘った楽器の音、迫力ある音の提供として、スピーカーやプロジェクターの使用など、本物に拘っています。リズム遊びや音による指示など、言葉での伝達以外の方法をいろいろと試すことを継続しています。                                  | 音楽の力を最大限に活かしながらも、音楽の力を活かした、ソーシャルスキルトレーニングであることをスタッフ間で常に共有し、音楽教室としての技術習得では無く、社会的自立を最終目的にする支援という意思疎通を、常に振り返りなどで確認した上でプログラムに落とし込んでいます。    |
| 3 | しっかりとした知識を持ったスタッフが、お子さまそれぞれの特徴を理解し、どのような働きかけを実施するべきかを常に考え、お子さまとの距離やスタッフ毎の役割を創った上で、関係性を築くことを大切にしていること。                         | 些細なことでも共有し、スタッフそれぞれの立ち位置において、どんなインプットを実施するかをコントロールしています。あえてきられ役を演じるスタッフを設け、お子さまにとっての必要な逃げ道を作ること、はっきりとダメなことはダメと適切なタイミングで、発達に凸凹がある児童にも時間のロスなく伝わる支援を目指しています。 | 日々都度、スタッフの異なる立ち位置で感じたお子さまの変化を共有しています。支援は常にお子さまの関心を引く必要があると思っていますが、言葉で説明ができれば良いというものでは無いことを理解し、アイデアを持ち寄っているという試すことを諦めない姿勢で支援いたします。      |

|   | 事業所の弱み(※) だと思われること<br>※事業所の課題や改善が必要だと思われること  | 事業所として考えている課題の要因等  | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等  |
|---|--|--|---|
| 1 | 保護者様もご参画いただける、教室イベントの適正化が、本来は必要とされているような内容のご提供が、届きづらい現象が起こっています。                                   | 長久手という土地柄もあり、親御様のご就労により、教室活動時間のご参画が困難という問題が顕著です。   | 土日祝日はお子さまにとっての親御様との関わり充実の重要な時間だと感じています。そこを邪魔せず、親子参加型のイベント企画を振替休日を使って実施することを決定し、企画立案中です。           |
| 2 | 送迎時における、児童であれば保育現場スタッフへの伝達の適正/効率化が課題だと感じています。当教室での気付きを、保育現場スタッフの負担を考慮し、効率よく伝達&共有化することができればと考えています。 | 「送迎」という安全第一な業務ということはもちろんで、上手く切り替え出来た状態で保育所の負担を減らしたいというところがベースにはありますが、それに加え、保育現場に療育の観点で何かお役に立てないかというのは常に考えています。 | ご利用者様に関わる保育現場でのスタッフや、お友達ともこちらから積極的に働きかけ、まずはコミュニケーションをとるところからコツコツと継続していくことを実施しています。                |
| 3 | 療育の質低下とならないよう、定員も支援時間も限定しているため、就労のご事情による、延長預かりを実施していません。   | 親御様の就労時間によるものであるため、現時点では大幅な時間延長は検討していません。  | 見学会でしっかりと送迎時間のニーズをヒヤリングさせていただき、ご利用の曜日なども他の利用者様との兼ね合いなども事前に把握した上で、事業所をして、お約束出来る送迎時間についてご説明をしております。 |